

みんなの居場所

頭の体操コーナー

裏に頭の体操クイズを載せています。
小学校で学習することをベースに作っ
ています。出来る出来ない関係なく、ご家
族でチャレンジしてみてください。会話
が広がります。

令和7年4月25日(金)

雑感

授業参観の折 ある保護者の方からお声を頂きました。この「みんなの居場所」に関する話題もあって、嬉しく感じました。これから気軽に声をかけてください。校長先生という声をかけにくいのかもしれませんが、そんな雰囲気はできるだけ消すようにします。

こうしてお声をかけを頂く度に嬉しそうに同時に身の引き締まる思いです。自分のことについて語ったり思いを語ったりすることは、自分自身の立ち位置を確認するためにも必要なことだと思っています。校長とはいえ、悩める多くの一人の人間です。仕事、子育て、人間関係、家族…、多くの悩みに押し潰されそうな時もあります。皆の心と話題を共有して、よりよい子育て、教育活動につながることをできれば良いなと考えています。これから子どもたちの実り多き活動を目指して頑張ります。

改めて勉強方法を考えてみた！

令和2年の今頃、私は熊本市に勤務し始めて3週間、休校措置が延長されるかどうかの判断を待っていました。結局、休校措置が延長になったのですが、子どもたちの学びは止まりません。学校に行かなくても行けない状況から、逆に「学びたい」という気持ちが強くなっている状況もあるのではないかと考えました。当時の我が息子達、双子なため、もう一つは危険を感じ始め、休校の間に少し勉強しておかないと…と懸念していたものです。この時改めて子どもたちの自主的な学習方法を私なりに考えてみたのが次の方法です。

①国語の漢字先取り学習

担任時代よりやっていただいていたことが、国語で学習する漢字をすべて短期間に覚えてしまつたのです。それにより、その後の学習がスムーズになりました。更に他教科の学習でも自主学習の可能性が高くなるのです。漢字を覚えるのは単語で覚えるのではなく、熟語や慣用語で覚えるのが良いでした。漢字の意味は「し」はありますからね。語彙を増やすことは学習だけでなく、生活にも潤いを与えます。

②教科書を自主学習で進めてみる

新しい教科書を頂くとき、新鮮な気持ちになるのは私だけではないと思います。小中学校時代、新しい教科書後の方までじっくり見ました。学習は自主学習でも自発的な気持ちで進めていくことで、効果が上がります。いわゆる「主体性」が学習の成果を上げる鍵です。主体性が高ければ高いほど、また興味の高いものは成果が高くなります。国語、社会、算数、理科の中から二つ選んで、自主学習を進めてみては如何でしょうか。教科書の内容の配列には意味がありますので、できるだけ順番にやってみて下さい。新しい発見があります。

③辞書をもって読書

読書の大切さはお伝えした通りですが、内容が少し難しい本を読むのが良いと思います。意味の分からない言葉が出てきたら辞書で調べて読み進めるのです。想像力がついて創造性が高まります。

④フィジカル・トレーニング

動かないと体に悪影響、ストレスも溜まるの心にも悪影響を与えます。部屋でできるトレーニングを実施してみよう。

⑤自主学習のアイデアをみんなでシェアする

他にもいろいろなアイデアがあるはずですから、新しいアイデアが浮かんだら、シェアリングすると良いですね。良い方法があったらみんなで共有して切磋琢磨するのが良いでしょう。タビタビと書きましたが、何はともあれ、学校の日常の有難さが身に沁みる今日JCS便り。

シリーズ「自分を語る」#5

前回の内容は、私たち兄弟が伯母の家に残り残されてしまい、歩いて家へ帰るといつ決心をしたことについて。今回はその続編です。再度伯母の家の呼び鈴を鳴らすも反応なし。私は意を決して歩き始めました。傍らに泣き止まない弟を連れ、なだめながら歩を進めました。

季節は夏でした。普段から暑がっていた私に見ていた風景が、何か変えて見えました。熊本市坪井から新田町地までの距離は約5.5kmです。その道のりを5歳と3歳の兄弟が歩く訳で、テレビ番組の初めのお便りのような感じでした。弟は疲れて何度も途中で座り込んでいました。冷静に考えれば過酷すぎるよ。若い兄弟が国道を一人で歩いているのですから。今だったらすぐに通報されるのでしょか。幼稚園の通園バスが通る道をひたすら歩く私達。お金は持っていないので、水分も摂れませんでした。とにかく家に帰れば何とかなると思っていましたので、帰るといつ選択しかなかったのです。

一方、母は大慌てでした。慌てていつものハニック状態だったのでしょか。伯母は既に帰ってきており、母と伯母に事情を聞いていました。色んな可能性が排除できないというところ、警察に連絡するところになったのです。当時は大らかな時代だったのでしょか。幼子の兄弟を置いて用を済ませるのですから。この話題、我が家は語り草となっています。母親の情報を基に警察は周辺をパトロールしてくれました。でも、見つかりませんでした。当然ですね。まよが歩いて家に帰るなんて発想になかったのですから。

私たち兄弟は、既に熊本市の亀井まで到達していました。坪井から5.5km付近です。大人の歩行で1時間弱でしょか。私たち兄弟には凄く長く感じたいは言ってもありません。この頃になると暑さと疲労で二人で座り込むことも多くなっていました。そんな姿を見て、周囲の大人も変に思ったのでしょか。道路沿いにあったあるカス屋さんのおじいさんが、私たち声を掛けてくれました。

「僕達ここにの。」

「家に帰るよ。」

「お家じい。」

「新田町地。」

「じいから歩いてきたの。」

「坪井のおぢいさん。」

そのおぢいさん、放っておけなかったのでしょか。私たち兄弟を、それから根掘り葉掘り情報を出して、こう仰いました。

「おじいさんが家まで送るから車に乗るなよ。」

「。」

危険回避能力のない幼稚園児澤田…もしや誘拐？…そうです、見知らぬ人へ声を掛けられ、その人の車に乗ってしまふ澤田兄弟でした。運命は如何…。(つづく)